

国語科学習指導案

日時 平成29年5月18日(木) 3校時
児童 4年生
授業者
授業場

1 単元名「ミッション・ファイナライズ～科学的な読み物でクイズ新聞を作ろう～」～花を見つける手がかり～

2 単元の目標

科学的な説明文を読んで読書新聞にまとめる言語活動を通して、結論とその理由や根拠、事実とそれに基づく意見との関係を考えながら、段落相互の関係を捉えて読むことができる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、記録や報告の文章、図鑑や辞典などを読んで利用する言語活動を通して、結論とその理由や根拠、事実とそれに基づく意見との関係を考えながら、段落相互の関係を捉えて読むことや、目的に応じて様々な分野の本や文章を読む態度を養うことを目指している。

また、本単元で扱う中心教材「花を見つける手がかり」は、「もんしろちょうは何を手がかりにして花を見つけるのか?」という、日常生活において見られる事実を問題として取り上げ、その解明のために「色か、形か、においか?」→「色か?形か?」→「色か?」と実験を繰り返しながら消去法的に絞り込んでいき、「色を手がかりにして花を見つける」という「問いを解明する過程」を明快に描いた文章である。

また、文章全体が丁寧で易しい語り口調で述べられ、難解な語句もほとんどないため、児童が筆者の科学的な思考過程を追体験しながら読み進めていくことができるようになっている。さらに、「～のです(断定)」「～でしょうか(問い)」「～ようです(推論)」などの文末表現が用いられ、それぞれの段落の役割が明確になっていることも、事実と意見を見分ける際の大きな手がかりになっている。

このような「筆者が辿った実験の道筋と論理の組み立てを疑似体験することができる」という中心教材の特色は、児童が「結論とその理由や根拠」「事実とそれに基づく意見」との関係を考え、段落相互の関係を捉えて読むことに適したものであると言える。

(2) 目指す児童・生徒像

児童はこれまでに、「読むこと」領域(説明的文章)においては次のような活動を体験し、言葉の力を身に付けてきた。

これまでに児童の体験した活動	獲得した(発揮される)言語能力	前単元までに既に身に付けている言葉の力なので、本単元では活用を図るもの
○記録や報告の文章を読んで図鑑を書く活動 ○記録や報告の文章を読んで、報告文を書く活動	○必要な情報を得る上で、中心となる語や文に着目しながら読む力 ○必要や情報を得る上で、中心となる語や文に着目しながら内容を整理し、段落相互の関係を考えて読む力	○単元の見通しをもち大まかな計画を立てる力 ○中心となる語や文に着目して読む力 ○要点をまとめたり小見出しをつけたりしながら内容を整理して読む力 ○段落相互の関係を考えて読む力

このような児童の実態から、本単元における目指す児童像を、科学的な読み物で読書新聞を作り、他学年に紹介するという『単元を見通す言語活動』を体験しながら、複数の「記録や報告の文章」を比較しながら読むことを通して『結論とその理由や根拠、事実とそれに基づく意見との関係を考え、段落相互の関係を捉えて読む』言葉の力を自身の読書新聞の内容に生かして読んだり書いたりする姿とした。

(3) 指導観

「認識から思考へ」「思考から表現へ」のプロセスを重視した言語活動の充実

本単元では、「各教科や日常の言語生活との結びつき」を意識して学習過程をデザインしていく。「各教科との結びつき」では、理科「実験・観察」の学習内容との関連を図り、中心教材「花を見つける手がかり」のように、観察・実験によって問いを解明していく「科学的な読み物」の中から紹介したいものを選ぶ活動を位置付ける。これによって、児童と出合う言葉に接点生まれ、どのような方法で紹介するのか「適した紹介方法」を考えるようになるはずである。「日常の言語生活との結びつき」では、科学的読

み物を紹介する表現様式として「読書新聞」を扱うこととする。新聞は、「トップ記事」「第2の記事」「特集記事」など、紙面を様々な種類の記事や写真・イラストで構成することができ、記事を書く過程で発信した内容を限られた文字制限の中でまとめることができるという特徴を有し、日常生活において児童が目にする機会が多く、お気に入りの物語を紹介する際に用いた様式でもあり、自分との接点を見だしやすいものであると考える。このような2つの結びつきを意識することによって、「認識から思考へ」「思考から表現へ」という言語活動の充実が図られていくはずである。以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

目指す獲得させたい言葉の力
 結論とその根拠、事実とそれに基づく意見との関係を考えながら、段落相互の関係を捉えて読む力

国語科において「目指す対話的な学び」

一単位時間において引き出したい「ねらいとする見方・考え方」を含む思考

- ・ ヒントにする記事の内容は、「言葉」、「段落の組み立て」をヒントとして書こう。
- ・ 科学的な読み物の筆者の意見には、本文とつながりがある言葉や文章が使われているね。
- ・ 筆者の意見に使われている言葉は、「はじめ」「なか」「おわり」のどこと一番つながりがあるのかな？
- ・ 筆者の意見に使われている文章は、「はじめ」「なか」「おわり」のどこと一番つながりがあるのかな？
 「なか」に使われている実験の順番は、この順番じゃないといけないのかな？
- ・ 「なか」のまともりは「実験」。「はじめ」と「おわり」のまともりは、何ていうまともりになるかな？
- ・ まとまりの順序は、理科の考え方と似ているよ。

本単元において目指す児童の姿

既存の言語能力による意味付けを揺さぶる教師の関わり～I

前述のような「言葉における見方・考え方」を拡充したり鍛えたりすることができるように、一単位時間において次のように教師が関わり、既存の言語能力による意味付けを揺さぶっていく。

時	教師の関わり	鍛える・拡充する見方・考え方
2	筆者の意見と本文を提示し、つながりのある言葉や文章を問う中で、2つの関係性における「言葉や文章」「段落の組み立て」のつながりを捉え直すことができるようにする。	【言葉の働き】 ・ 筆者の意見と本文のつながり
3	「実験や観察」という言葉と本文を提示し、「はじめ」「なか」「おわり」とのつながりを問う中で、筆者の意見と「なか」の事実とのつながりを捉え直すことができるようにする。	【言葉の使い方】 ・ 観察や実験という言葉 ・ 「なか」の事実とのつながり
5	「実験や観察を重ねる」という文章を提示し、「はじめ」「なか」「おわり」とのつながりを問う中で、筆者の意見と「なか」の事実の順序とのつながりを捉え直すことができるようにする。	【言葉の意味】 実験を重ねる 【言葉の働き】 ・ 実験の順序と意味
6	「考え方のすじみち」という文章を提示し、「はじめ」「なか」「おわり」とのつながりを問う中で、筆者の意見と本文の組み立てとのつながりを捉え直すことができるようにする。	【言葉の意味】 すじみち 【言葉の働き】 ・ 意味段落の順序

4 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・技能
ア 読書新聞～科学的な読み物編～を書くために、本や文章の選び方や利用の仕方を工夫しようとしている。 イ 読書新聞～科学的な読み物編～の紹介したい中心的な部分がよくわかるように内容を紹介している。	ア 文章の要点や細かい点に注意しながら読み、疑問に思ったことや課題としてさらに調べたいことなどを明らかにして読んでいる。 イ 知識や情報を選択したり表現の仕方に着目したりして読んでいる。 ウ 必要な情報を得る上で中心となる語や文に着目して読んでいる。 エ 事実同士の関係など、段落相互の関係を考えながら読んでいる。 オ 事実とそれに基づく意見との関係など、段落相互の関係を考えながら読んでいる。	ア 文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを理解しながら読んでいる。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学 習 活 動	手 立 て
教師が作成した数種類の科学的な読み物を紹介する。	1 時間目 読書新聞～科学的な読み物のひみつ編～を作って他学年に紹介するための見通しを持ち、学習計画を立てる。 関ア 読ア	読書新聞を作るための手順を交流することで、「記事の内容」や「紙面構成」等を考える必要性が生まれるようにする。
中心教材の筆者の主張と本文を提示する。	2 時間目 筆者の主張とつながりのある言葉を選び、その理由を書いたり交流したりする。 読イ	筆者の主張の中に出てくる言葉や文章と本文とのつながりについて問いながらその理由を交流する中で、「言葉や文章」「段落の組み立て」という点でつながりがあるという気づきのきっかけをつかむことができるようにする。 I
第3の記事（クイズの答え）を書く時間を保証する。	筆者の意見と、本文を読み比べると、つながりが何となく見えてくる。	
中心教材の筆者の主張と「はじめ」「なか」「おわり」の本文の意味段落を提示する。	3 時間目 中心教材を読んで、筆者の主張とつながりのある意味段落を選び、その理由を書いたり交流したりする。 読ウ	「筆者の主張」と、「本文」のつながり、共通点を問うことをきっかけとして、「言葉」や「文章」が共通しているという思考を引き出し、2つの関係につながりがあることに気付くことができるようにする。 I
自分が選んだ「科学的読み物」の文章を読む時間を保障する。	筆者の意見と本文を読み比べると、「なかの事実」とのつながりが見えてくる。	
自分が選んだ「科学的読み物」の文章を読む時間を保障する。	4 時間目 自分の選んだ科学的な読み物で、第2の記事を書く。 読ウ	「筆者の主張」と、「本文」のつながり、共通点を問うことをきっかけとして、「言葉」や「文章」が共通しているという思考を引き出し、2つの関係につながりがあることに気付くことができるようにする。 I
中心教材の筆者の主張と「はじめ」「なか」「おわり」の本文の意味段落を提示する。	5 時間目 中心教材を読んで、筆者の主張とつながりのある意味段落を選び、その理由を書いたり交流したりする。 読工	重なることの意味を問うことをきっかけとして、「なか」の実験はこの順番で繰り返す必要があるのかを交流することで、筆者の意見とのつながりに気付くことができるようにする。 I
自分が選んだ「科学的読み物」の文章を読む時間を保障する。	筆者の意見と本文を読み比べると、「なかの事実の組み立て方」と、意見とのつながりが見えてくる。	
中心教材の筆者の主張と「はじめ」「なか」「おわり」の本文の意味段落を提示する。	6 時間目（本時） 中心教材を読んで、筆者の主張とつながりのある意味段落を選び、その理由を書いたり交流したりする。 読才	すじちの意味を問うことをきっかけとして、「始め」と「おわり」の小見出しに着目できるようにすることで、意味段落の順序と「考え方のすじち」につながりや、筆者の意見と本文の段落構成とのつながりに気付くことができるようにする。 I
自分が選んだ「科学的読み物」の文章を読む時間を保障する。	筆者の意見と本文を読み比べると、本文の組み立て方と意見とのつながりが見えてくる。	
自分が選んだ「科学的読み物」の文章を読む時間を保障する。	7 時間目 自分が選んだ科学的な読み物を読んで、読書新聞を書く。 言ア	それぞれの記事の内容と、これまで発見してきたヒントを問うことで、それぞれの記事ひきわいものを選ぶことができるようにする。 I
中心教材の筆者の主張と「はじめ」「なか」「おわり」の本文の意味段落を提示する。	8 時間目 読書新聞～科学的な読み物のひみつ編～を交流し、他学年に紹介する。 関イ	単元の学びを振り返り、活動のよさに気付くことができるようにする。
単元の活動を振り返る時間を保障することで、獲得した言葉の力の自覚化を図ることができるようにする。		

6 本時について6／8時間目)

(1) 本時の目標

中心教材の「筆者の主張」を選びその理由を書いたり交流したりする言語活動を通して、事実とそれに基づく意見の関係など、段落相互の関係を考えて読むことができる。

(2) 本時における研究の視点

本時においては、主に1の手立てについて講じていく。「考え方のすじみち」という文章と意味段落とのつながりについてある程度根拠が固まってきた段階で、「すじみち」の意味や、「はじめ」「おわり」における意味段落の小見出しについて問うことをきっかけとして、「考え方のすじみち」と「本文の段落構成」のつながりへの気付きを促し、筆者の意見と段落構成につながりがあることについて自分なりの根拠に妥当性を持つことができるようにする。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導 (▲)
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の見通しを持つ。</p> <p>前の時間は、筆者の意見と、「なか」とのつながり見付けることができたね。</p> <p>今日は、考え方のすじみちとのつながりを考えよう</p> <p>「はじめ」「なか」「おわり」の、どことつながりが一番強いのかな。</p> <p>やっぱり、「なか」だよ、重ねる、と同じ意味だよな？ 「はじめ」かな。実験の問いが出ているままとまりだよな？</p> <p>理由がはっきりすると、記事が書けそうだね！</p>	<p>○本時の学習計画を確認することで、クイズ新聞を作るために中心教材を読み、「考え方のすじみち」という言葉と、意味段落とのつながりを明らかにするという見通しを持つことができるようにする。</p> <p>○意味段落の分け方を提示することで、どことのつながりが強いのか、現時点における判断ができるようにする。 手立てI</p> <p>□当該単元の目的に立ち戻り、新聞記事を書くために、2つの関係につながる理由を明確にするという必要感が生まれるようにする。 A-①</p>	<p>▲意味段落を選ぶことができない児童には、内容を確認したり文章を一緒に読んだりすることで、選ぶ根拠を明確にすることができるようにする。</p>
<p>「考え方のすじみち」と、一番強くなっているのは、どこ？理由をはっきりさせて、ヒントを明らかにしよう。</p>		
<p>2 中心教材を読み、つながりの強い意味段落を選び、その理由を書く。</p> <p>僕は、「なか」とのつながりが一番かな。 私は、「はじめ」だと思ふな。</p> <p>3 選んだ理由を交流する。</p> <p>どことのつながりが一番強いのか、理由をはっきりさせよう。</p> <p>すじみちというのは、重ねる、と同じ意味じゃないかな。 「はじめ」の問いの文が、考え方と同じだと思ふよ。</p> <p>どちらもはっきりとした根拠にはならないね。証拠になりそうな言葉はあるかな。</p> <p>「すじみち」は、物事の順序、という意味なんだね。つまり考え方の順序、ということだ。</p> <p>「実験の順序」、ということかな。でも、実験を重ねることと意味が一緒になるね。</p> <p>「なか」は「実験のまとまり」、「はじめ」は「問題」、「おわり」は「結果・結論」だね。</p> <p>本文の組み立ては、理科の実験・観察の考え方と同じだね。考え方のすじみちは、本文の組み立てのことだ。</p> <p>筆者の意見と、本文の組み立てが繋がっているんだね。</p>	<p>○どこを選んだのか」を問うことをきっかけとして関わりながら、それぞれが選んだ理由を交流することができるようにする。</p> <p>○「すじみち」という言葉の意味を問うことをきっかけとして、筆者の意見で示していることが「考え方の順序」であることに気付くことができるようにする。</p> <p>○「はじめ」と「おわり」のまとまりについて問うことで、「問題（はじめ）」「結果・結論（おわり）」であることへの気付きを促し、「考え方のすじみち」が「本文の組み立て方」であることを捉えることができるようにする。 手立てI</p> <p>○「筆者の意見」と「本文の組み立て方」のつながりを問うことで、2つの関係性を捉</p>	<p>【ノートへの記述】</p> <p>▲対話の内容を捉えることができない児童には、教師が聞き直したり、隣の児童と確認する時間を保障したりすることで、捉えることができるようにする。</p> <p>△「すじみち」の意味や、「はじめ」と「おわり」の小見出しに着目して読んでいる児童がいた場合は、その姿を称賛し、取り上げて紹介することで、他の児童がそのよさに気付くことができるようにする。</p>
<p>段落のまとまりに注目すると、本文の組み立て方と筆者の意見とのつながりが見えてくる。</p>		
<p>4 自分が選んだ科学的読み物を読み、つながりの理由を書いたりする。</p> <p>自分の科学的読み物も、本文の組み立てが筆者の意見とつながっているよ。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、次時の見通しを持つ。</p>	<p>□自分の選んだ科学的読み物を読んで、つながりの理由を書く時間を保障することで、「筆者の意見」と「本文の組み立て」の関係性を捉え、記事の内容として使いこなすことができるようにする。 B-①</p> <p>○学習計画を確認することで、次時の見通しを持つことができるようにする。</p>	<p>【ノートへの記述】</p> <p>▲△本時で見られた姿を十分に称賛し価値付けることで、次時の学習の意欲に繋げられるようにする。</p>